

## 今日のトピック ブラジルの金融政策(2015年1月) 3会合連続で政策金利を引き上げ

### ポイント1 利上げ幅は前回に続き0.50%

#### 市場予想通りの決定

- ブラジル中央銀行(以下、中銀)は21日、政策金利を0.50%引き上げ、12.25%とすることを全会一致で決定したと発表しました。
- 政策金利の引き上げは、10月の会合から3会合連続です。引き上げ幅は、市場の大方の予想通り、12月の前回会合に続き0.50%となりました。

### ポイント2 利上げを続ける見込み

#### 物価上昇率の高止まりに対応

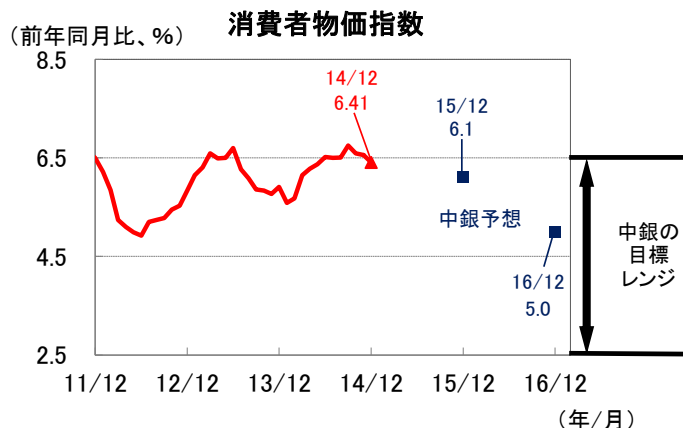
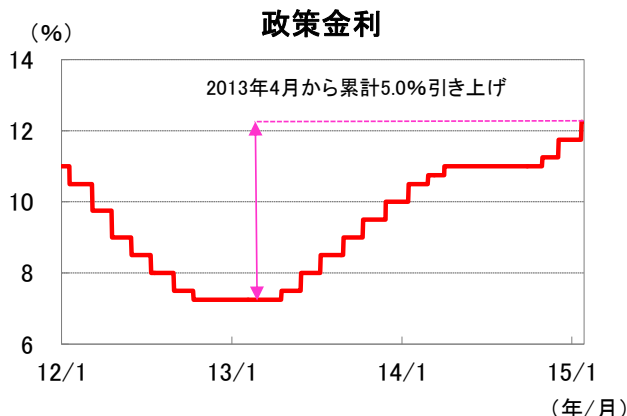
- 消費者物価指数が中銀の物価目標(年+2.5%~+6.5%)の上限近辺で推移しており、レアル安の物価への影響も懸念されます。
- 中銀が12月23日に発表したインフレレポートによると、物価見通しは2015年末に前年比+6.1%、2016年末に同+5.0%となっています。物価上昇率の低下は緩やかにとどまり、当面目標レンジの中心値(年+4.5%)を上回る見込みです。
- 中銀は物価抑制に必要な手段を積極的にとる姿勢を示しており、次回会合(3月3日~4日)でも利上げを続けると見込まれます。

### 今後の展開 財政再建や物価抑制などを通じ、中長期的な経済成長率向上へ

- ルセフ大統領は今年1月から2期目(任期4年)を迎え、財務相に市場で評価の高いレビ氏を任命しました。レビ財務相は、財政再建や物価抑制に積極的に取り組む姿勢であり、1月19日には増税を含む財政健全化策を発表しました。
- 財政健全化策には、ガソリンなどに対する燃料税の引き上げが含まれており、物価が中銀予想通りに低下することは、難しくなると見られます。
- 中銀が物価抑制のため金融引き締めを続け、政府が財政再建に取り組むことから、景気は短期的に政策的な支援を欠き、低迷が続くそうです。
- 一方、こうした政府・中銀の政策は、国債への信用を高め、利回りの低下につながります。また、中長期的な経済成長見通しの改善にもつながると期待され、レアルや株式市場の支援材料になると考えられます。

ここも  
チェック! 2015年01月21日 IMFの世界経済見通し改定(2015年1月)  
2014年12月24日 最近の指標から見るブラジル経済(2014年12月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。



(注1) 政策金利は2012年1月1日~2015年1月21日。  
消費者物価指数は2011年12月~2014年12月。  
(注2) 消費者物価指数の予想は、ブラジル中央銀行が12月23日に発表したインフレレポートの予想値。  
(出所) Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成